

# 近代化産業遺産



ふれあい館まゆぐら

## 信州須坂 蔵の町並みめぐり (第1集 改訂版)



ふれあい館しらふじ

## 長野県須坂市

## = 信州須坂 蔵の町並みめぐり =

須坂市は、明治末期から大正期にかけて製糸業で大きな発展をとげました。  
世界恐慌のあおりを受けて製糸業は衰退しましたが、生糸の町として栄えた往時をしのばせる遺産は数多く残っています。

市内のいたるところに残された土蔵造りの町並みを始め、大正時代にいち早く整備された上水道施設や鉄道関連施設などが今に残り、その他にも魅力的な建造物がいっぱいです。

ここでは、その一部をご紹介します。

**ようこそ 須坂へ！**

**—ここが須坂の玄関口—**

### 1 東山魁夷碑「馬車よゆっくり走れ！」

この詩碑は平成6年(1994)、市制40周年を記念して信州須坂町並みの会から市の記念事業として東山魁夷画伯の言葉を刻んだ詩碑を建立して欲しいとの提案がなされ、平成10年(1998) 東山魁夷画伯詩碑建立委員会と信州須坂町並みの会が中心となり市民の募金や市の助成など多くの方々のご協力で実現したものです。

初め信州須坂町並みの会では画伯が随筆の中で、ドイツの古い都市、古い町並みを大切に保存している、ローテンブルグの城門に書かれた有名な「歩み入る者に やすらぎを 去り行く人に しあわせを」の言葉をと考えていましたが、建設の話を進めていくうちに、東山画伯夫妻のご好意により「馬車よ ゆっくり走れ！」の絵をご寄贈いただき、なお碑文も揮毫していただき実現したものです。

この場所は古くから善光寺街道や谷街道の須坂への入口として、多くの人々が歩いた「須坂旧市街の玄関口」です。



## 2 須坂クラシック美術館（元 牧新七家）

### 須坂市指定有形文化財

明治初期に建てられた屋敷で、土蔵・長屋門・うわみせに囲まれて母屋があります。ぼたもち石積みの石垣も美しく残っています。

母屋に入ると書院窓のある座敷、奥座敷付近の門柱、尺2寸もある冠木、天井も総ケヤキ造りと贅を尽くしたつくりとなっており、江戸時代から藩御用達の呉服商を営んでいた繁栄ぶりがうかがえます。



平成19年度 経済産業省認定 近代化産業遺産

## 3 製糸家 越家



この建物は、明治初期に建てられました。須坂の玄関口を飾る堂々たる構えです。

須坂の製糸王・越寿三郎が娘夫婦のために購入しました。

1メートルあまりもある大鬼瓦、棟重厚壮大な大屋根、支え上げる出桁、3段の段蛇腹、乳鍵、露切りが立派です。

## 4 蔵のまち観光交流センター（観光案内処）

明治中期に建てられ、旧角一製糸場のまゆ蔵として使用されていた3階建ての建物です。

この建物の大屋根の鬼瓦は、日(カ)の紋商標が刻まれ威容を誇っています。

門の風切り軒瓦には、丸(マ)の家紋、下屋の風切瓦には、日(カ)の屋号が並んで見ることができます。

蔵の町並みの導入部分の観光案内処として、平成21年6月1日に開館しました。



## 5 製糸家 牧家 みつよし (三善農事)



明治初期の豪壮な製糸家の構えです。明治3年に起こった須坂騒動には遭わなかったといわれ、土蔵・長屋門・蔵店（母屋）と続いています。

総ケヤキの門、戸袋、ぼたもち積みの石垣、めぐる堀と築地塀が立派な造りです。

2階建て平入り土蔵の母屋が違い棟で、重厚な段蛇腹があります。土台は、ぼたもち石の見事なものでしたが、舗装で道路が高くなり、現在は少ししか見ることができません。

普通の瓦葺より重ねあわせを深くし、雨漏りなど少しも無いしっかりした造りです。町割りも2~3軒分を占めた富豪の家です。

### ◎この付近の町並み◎

#### 町家との連携

手前と奥の家が妻入りの町家で、その間に平入りの店屋があります。

母屋の棟線の変化は、気負いがなく協調性が美しいつくりです。各家の屋根がおりなす線の変化と統一がとれています。

妻入りと平入りの屋根のおりなすスカイラインの美が見られます。



## 6 ふれあい館まゆぐら (無料 休憩処)



### 国登録有形文化財

明治期に建てられ、旧田尻製糸のまゆ蔵として使用されていた3階建ての建物です。

もとは現在地から南東に約180メートル離れた立町にあり、移転・改修をした建物です。

館内では、生糸関係の展示及び機織りを実演しています。

この建物は、都市計画道路の整備により解体を迫られていましたが、製糸業で栄えた須坂の歴史を後世に伝える歴史的に貴重な建築物であったことから曳き家移転を行いました。

街なみ整備事業のまちづくり拠点施設として保存・再生を行い、平成13年4月25日に開館しました。

平成19年度 経済産業省認定 近代化産業遺産

## 7 下綿屋 小林家

江戸時代後期（明和年間 1764 年～）の建物といわれています。小林家は旧製糸家でした。

街道に対して妻壁を見せる母屋（妻入り）・袖部屋が鍵の手になっている格子戸の店です。

土蔵は屋敷奥の母屋に続いています。

壁の小舞がヨシでなくソダで編まれているようで、古さをものがたっています。



## 8 笠鉾会館ドリームホール



須坂市の指定有形民俗文化財である笠鉾 11 基と屋台 4 台を保存展示しています。

この笠鉾は裳階が 2 段の形態をとり、全国的にも貴重な民俗文化財であるといわれ、毎年 7 月に行われる須坂祇園祭には、神輿とともに町を練り歩き、疫神を追い払うといわれています。

その様子を 2 階の 3 面シアターで紹介しています。

## 9 住吉屋 小林家



ここは祇園祭でお天王さんが通った古い辻です。

瓦屋根には白亜の壁と格子戸があります。軒裏は蛇腹仕上げの深い湾曲になっています。（くり蛇腹）

間口 10 数間のほぼ全面が残されている建物は希少です。

## 10 旧信陽銀行



製糸全盛期の明治 35 年創立の「信陽銀行」の跡です。

軒裏は段蛇腹で、妻壁には 3 段の露切り、乳鍵も 4 段あり立派です。

表は総ケヤキの玄関で、石橋も跡を残しています。

## 11 製糸家 勝山家



大正7年建築の蔵造りの町家です。  
左右に門を挟んで2棟の2階建ての土蔵造りの店です。

左側は大壁造りの2階建てで下屋つきの平入切り妻造りです。4段蛇腹の軒裏や、土塗の戸袋など、砂壁造りになっています。

右側は繭蔵です。防火のため、軒裏まで白壁に塗られています。

明治10年から製糸業を営み、大正期には約50人の工女を抱えていました。内部に当時の保健室や寄宿舍が残されています。

## 12 塩屋醸造 上原家

### 国登録有形文化財

主に明治初期の建物です。

屋敷割の間口は16間で、右端に妻を見させているのが醤油蔵。それに続く厚塗土蔵造りの平入り2階家が「上店」です。

門を潜ると6つの土蔵造りの醸造蔵があり、一番奥の14間に及ぶ、2つの味噌蔵、諸味蔵、穀蔵、手造蔵、醤油蔵と続きます。

のれんを分けて入るとおいしそうな醤油のにおいがしてきます。

老舗の主人は、蔵癖といい「蔵にはそれぞれの麹菌があり独特の味をだす」と伝統の味の話をしてくれます。



## 13 浦野酒店 浦野家



大正3年に建てられた家屋で、製糸業全盛期の息づかいが聞こえる町辻角の酒屋です。

創業前は、現奥田神社の下で製糸業をしたり、材木を商っていました。

店舗は平入りで上げ裏塗の大壁造りです。

金箔の大看板に杉玉、厚いケヤキ板のカウンターが立派です。隣家から水平に平入りが続き、勝山たばこ店の妻入りの屋根との連続が、リズムのあるスカイラインになっています。

## 14 ふれあい館しらふじ 国登録有形文化財

明治期に建てられた旧丸田医院の母屋・土蔵・洋館風旧診療棟等を整備し、平成14年4月15日に開館しました。

かつて須坂藩の要職を務めた浦野家が須坂藩邸の西隅を固めるように建てた3階建ての土蔵と大壁造りの長屋門は、鬼瓦の威圧的なしつらえや重厚なぼたもち石積み等豪快な造りで、市内の歴史的町並みの中でもひとときわ目を引きます。



## 15 旧上高井郡役所

大正6年に建築された、県内に唯一残されている郡役所の建物です。

木造2階建て、寄棟造り、瓦葺。上げ下げ窓を持つ洋風建築で、薄緑色に塗られた外壁はドイツ下見という板張りの工法です。

正面玄関車寄せ上にはテラスを備え、その上部には切妻破風（ペジメント）が見られるなどバロック様式の特徴を色濃く伝えています。

## 16 浮世小路 うきよこうじ

明治中期から形成され、江戸時代よりの旅館太光楼の脇を入るので「太光楼小路」とも呼ばれていました。裏川用水にかけられた浮世橋が現在も残されています。

板塀に細格子戸のある料亭、芸者衆の置屋、髪結い、銭湯、見番（料芸組合）、太光楼から向かって浮世橋の左奥北にはますだや升田屋田中製糸・右手奥には水車の穀屋がありました。いずれも裏川用水の水車を利用していました。





## 17 西田屋 渡辺家

明治初期の黒塗りの蔵店で、高い棟や、軒裏には3段塗りで仕上げた重厚な段蛇腹だんじゃぼらがあります。

大屋根を支える出梁ではり、隣家と連携する門に特徴があります。

明治25年の「日本全国商工人名簿」には「呉服荒物商西田屋」とでている古い呉服店です。

## 18 山下薬局 山下家

江戸末期の土蔵（大壁）造り。安永5年（1776）中町一帯に大火事があったため、翌年店舗を建てたという記録が同家にあります。

類焼を防ぎ、防犯を兼ねた「うだつ」が2階軒下にあります。妻壁が本屋根より高くなっている部分です。うだつは富のシンボルともいわれました。須坂で「うだつ」がある家は、山下家と丸山家の2軒だけです。

町の防災に備えて造られた望楼といわれる3階があり、四方に窓があるよせ棟、瓦葺きは、明治11年に居宅を改築した際に増築したものです。

山下家は薬種商を営むかたわら、藩政や町政に参加する重鎮を数代にわたり輩出しました。享保年間（1716年～）須坂に住み、以来薬種商を営み、善光寺一円の医師85人と取引をした他、五代茂明しげあきは藩命により鎌田山裏一帯に桃829本を植栽しました。



## 19 高津屋 小布施家



乾物商の老舗の面影が偲ばれる高津屋商店のケヤキ板の軒看板が、門の破風下に掲げられています。

小布施家の屋敷は2軒分（10間）の間口で、須坂では屋敷の片隅に門を持つ片路地形式（片門）が一般的な中、真ん中に門を構えています。

小布施家は高梨の出身で、文政年間（1818年～）に現在の場所へ来たといわれています。

祖父の辰三郎は須坂商業銀行の頭取等もしていました。

## 20 西糶屋 小田切家

大麴屋とも呼ばれる小田切家の宗家の屋敷構えで、石橋のある長屋門が見事です。

旧製糸家らしい豪壮な武家屋敷風の長屋門と商家造りで、石橋とセットされて残っている長屋門の構えは貴重なものです。

門前の用水路を丸石積みで堀状に水をたたえる仕組みにし、そこに石橋をしつらえています。

小田切家は、幕末から明治中期にかけて、須坂の生糸 13 人衆の 1 人として活躍していました。

幕末までは町年寄や藩のご用達を勤めてきた家です。

明治 3 年、須坂騒動に巻き込まれて消失、後に再建されました。

玄関の前庭には車屋があり、人力車 2 台と車夫の待機する詰所つめしょが現存しています。奥には水車小屋も残り、土蔵の廊下は青い大きなタイルがはられています。



## 21 宇治の園茶店 佐藤家



漆喰しっくいの大壁作りで、軒裏は垂木の見える「あげうら塗り」です。2階の軒下に上がっている「御茶所」のいかにも古い看板と、三階の望楼やぐら、櫓作りが目を引きます。

8代佐藤長左エ門の娘に、天保元年（1830）に日瀧村の越源蔵を婿養子に迎え、別宅の現在地そうぞうに分家しました。当初は農家でしたが、二代崇蔵がお茶の専門店を開きました。

母屋続きの土蔵を解体した際、弘化 3 年（1846）正月 2 日の墨書きの小柱が発見されました。大屋根の軒を和洋破風にして、二重垂木の銅版葺き唐破風造りです。

## 22 旧越家住宅

### 国登録有形文化財

明治 45 年に須坂の製糸王・越寿三郎が息子のために買い与えた家屋で、明治末期の建物です。

主屋の客座敷は、3室の続き間になっており、合計で 36 畳にもなります。

当時の製糸家の豊かな生活をしのばせてくれます。

かつては、この一帯が山丸組本社の敷地でした。大正 9 年にアメリカ絹業協会長のチャールス＝チニー一行（14 名）を招待したのもこの建物です。



平成 19 年度 経済産業省認定 近代化産業遺産

## ★市内のこのほかの建造物★

### J A 須高 井上支所

昭和初期の建てられた洋風の建物です。

この時代は、アールヌーヴォと呼ばれるこのような建物が世界中で流行していました。

須坂長野東インターの付近に建てられています。



### 旧園里学校

#### 須坂市指定有形文化財

明治 16 年に建てられた古い学校です。

玄関の飾りの彫刻は、神社のような彫刻で、柱は洋風の感じがします。

洋風と和風が混ざり合った「擬洋風<sup>ぎようふう</sup>」の建物です。

豊丘小学校の向かい側に建てられています。

### 坂田浄水場

大正 15 年に完成した上水道施設です。

施設内には、この頃に流行していた洋風の建物が残されています。

施設の管理上、一般の見学はできません。

平成 19 年度 経済産業省認定 近代化産業遺産



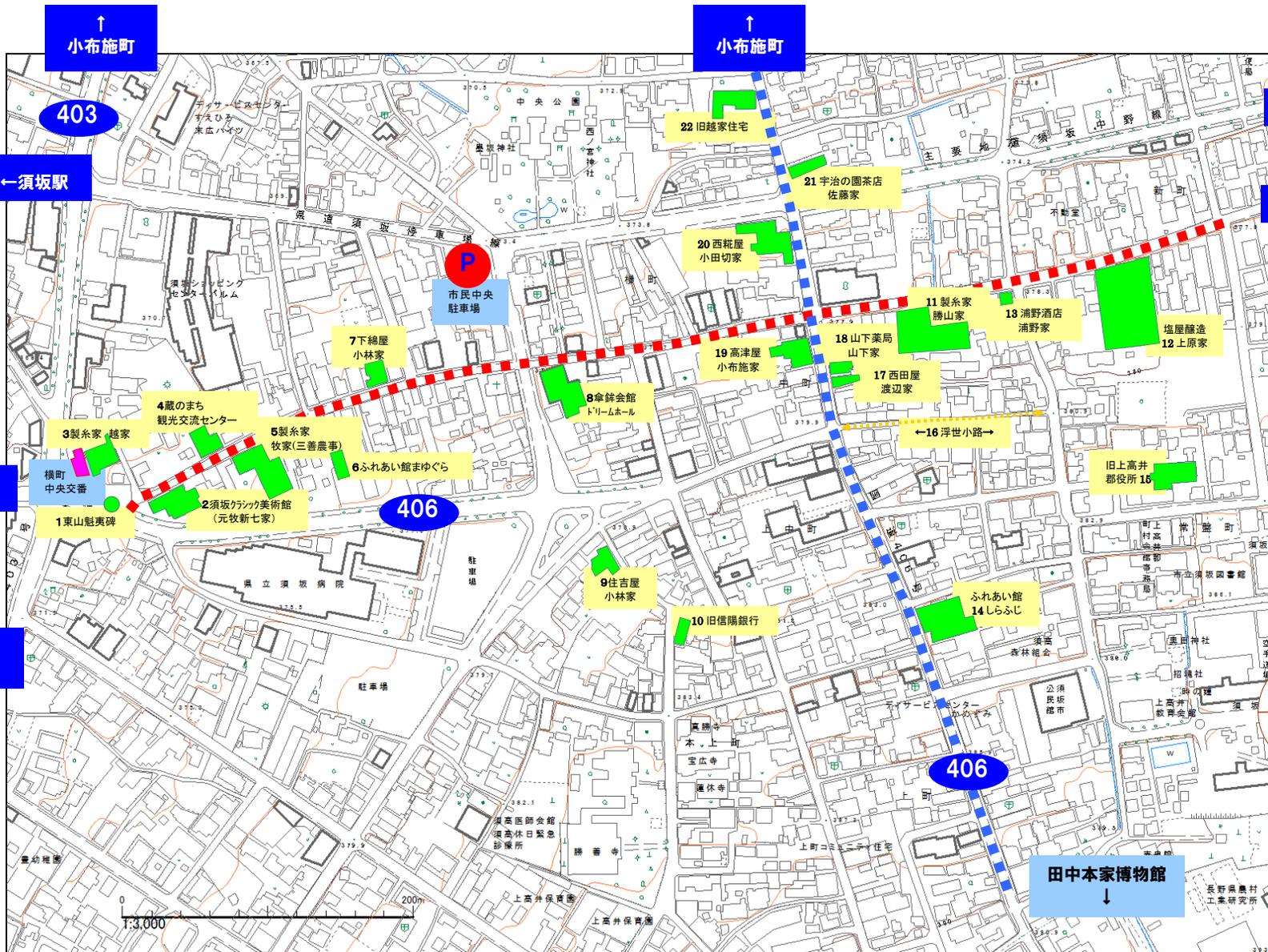
### 村山橋

大正 15 年 6 月 28 日に須坂市で初めて鉄道が開通した時に、千曲川に架けられた鉄製の橋です。

建設当時は、長野県内で一番長い橋でした。

新しい村山橋が上流側（写真左側）に架け替えられ、平成 21 年 11 月に鉄道の切り替えを最後に役目を終えました。

今後、取壊されますが、橋の一部の保存が検討されています。



↑  
小布施町

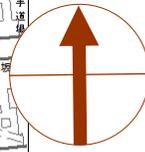
↑  
小布施町

高山村→

高山村→

←長野市

須坂長野東 IC  
↓



田中本家博物館  
↓